

読賣新聞

2012年(平成24年)

12月11日 火曜日

7日の地震 M7.4に修正

三陸沖 複数断層動いた可能性

気象庁

気象庁は10日、三陸沖を震源とした7日の地震の規模を当初のマグニチュード(M)7.3からM7.4に修正したと発表した。地震計の記録などを詳しく解析した。また、海のプレート(岩板)が陸のプレートの下に潜り込む日本海溝の東西で、複数の断層が動いて発生した可能性があるとの見解を示した。

今回の地震は当初、海溝の沖合(東側)で地殻が引っ張られて断層が上下にずれたと考えられていたが、斎藤誠・地震情報企画官は「(そのような)単純なア

ウターライズ型地震ではない可能性がある」と話した。地震波の波形や余震の発生状況などから、海溝の東側

の断層が押し合う力でずれ、その後、その影響で陸寄りの西側の断層では引っ張り合め、気象庁では一つの地震う力が働き、より大きなずりとして記録した。

東海、東南海、南海地震などが同時発生するマグニチュード9クラスの「南海トラフ巨大地震」について、高知県は10日、津波による浸水被害の新たな予測を発表した。県内では最大で全人口(約75万人)の半数にあたる38万人が被災すると想定。全国最大の34以上の津波が来るとされる黒潮町などでは人口の9割に上るといふ。県内死者数は最大4万9000人とされるが、被災者数の推計が明らかにするのは初めて。

県は、国の有識者会議が8月

高知38万人 津波被災予測

南海トラフ巨大地震

に公表した被害予測を基に詳細な地形データを加味し、全ての堤防や防波堤が機能しないなどと最悪の場合を想定して試算した。

津波による浸水が予想される沿岸19市町村について、浸水面積は最大計1万7974haに達し、国の予測の1.13倍になった。被災者は、昼間が県内全人口の50%にあたる38万1630人で、夜間は35万3480人。

県は、今回の被害予測などから来年3月までに各市町村別の死者数の想定をまとめる方針。